

世界のカーボンドレジットの最新動向 ～VCMイガイダンス案から学ぶ～

気候変動とエネルギー領域
副ディレクター

高橋健太郎

本日のお話

- 1 カーボンクレジットの動向
- 2 様々なイニシアティブの動き
- 3 自主的炭素市場十全性イニシアティブ（VCMI）の概要
- 4 VCMI Codeの4つのステップ
- 5 カーボンクレジットの展望

本日のお話

1 カーボンクレジットの動向

2 様々なイニシアティブの動き

3 自主的炭素市場十全性イニシアティブ（VCMI）の概要

4 VCMI Codeの4つのステップ

5 カーボンクレジットの展望

最近のカーボンプレジットのキーワード

高品質なクレジット



クレジットの品質に言及



情報開示

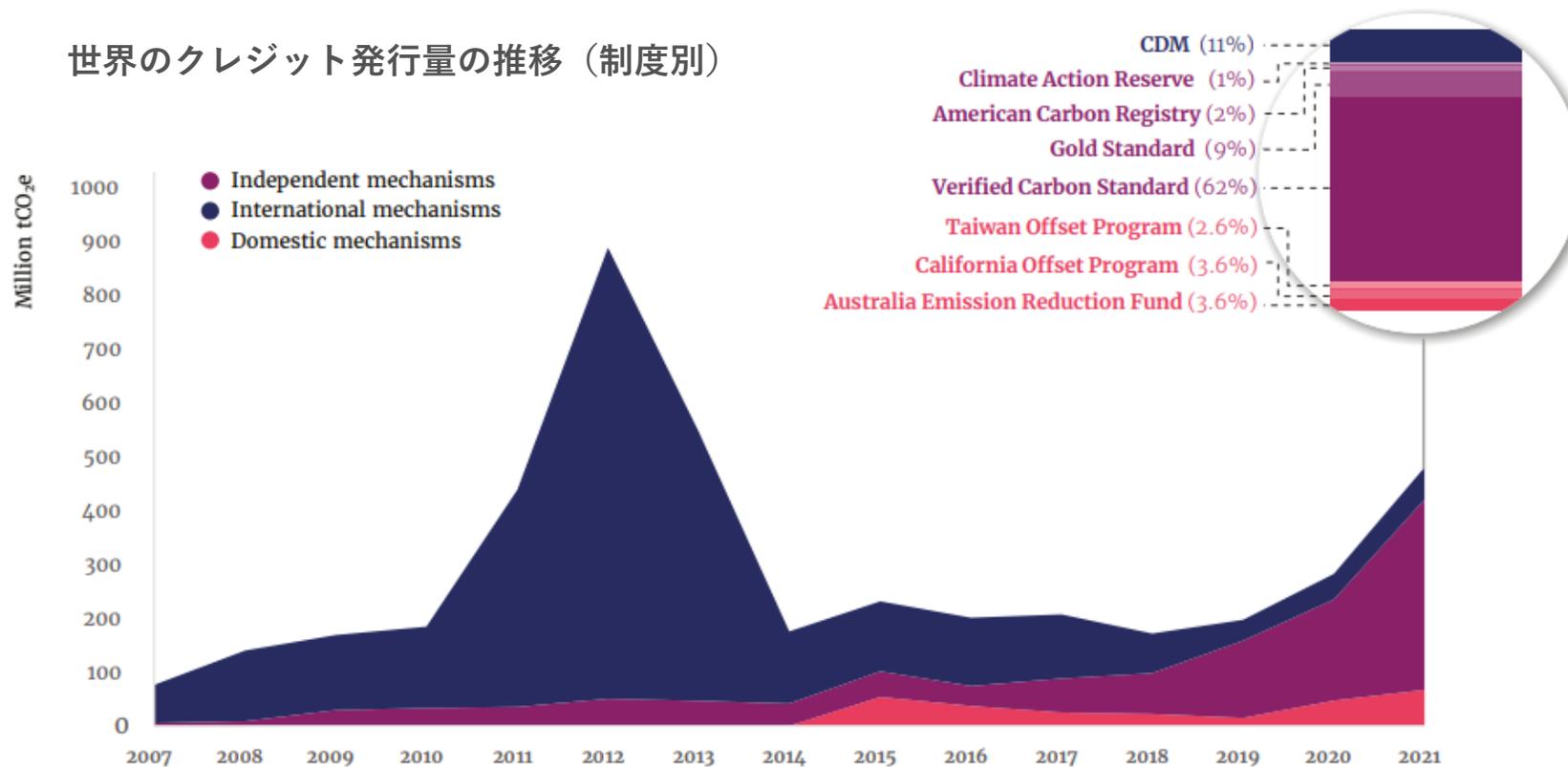


バリューチェーン外 の削減 (BVCM)

※Beyond Value Chain Mitigation

数字で見るカーボンクレジットの動向（1）

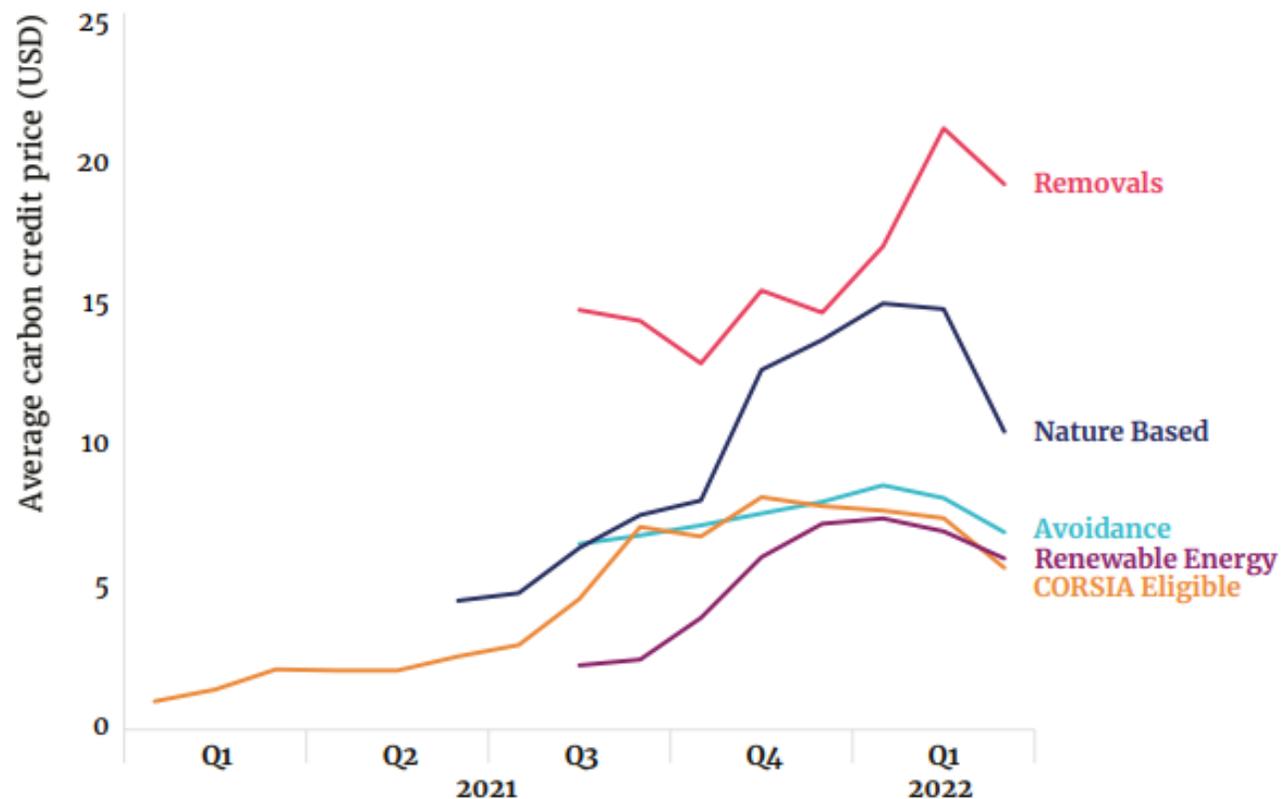
クレジット制度全体で、クレジット発行量が**48%の増加**（3.27億トン→4.78億トン）
特に自主的炭素市場のクレジット発行量が増加



出典：世界銀行 State and Trends of Carbon Pricing 2022, Figure9
<https://openknowledge.worldbank.org/handle/10986/37455>

数字で見るカーボנקレジットの動向（2）

除去・自然に基づく解決策（森林系）のプロジェクトから発行されるクレジットの価格が高い傾向



出典：世界銀行 State and Trends of Carbon Pricing 2022, Figure14
<https://openknowledge.worldbank.org/handle/10986/37455>

カーボンクレジットを使用する目的

コンプライアンス目的

1 パリ協定の目標達成（NDC）

● 対象：パリ協定締約国
● 現状：6条の活用を検討する国は多いが、削減目標達成にクレジットの使用を決めた国は少ない

2 国内排出量取引制度（ETS）、炭素税の削減義務目標達成

● 対象：削減義務が課せられた企業等
● 現状：EU等はETSにおけるクレジットの使用に制限適用

3 CORSIAの削減目標達成

※CORSIA：Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation

● 対象：航空会社
● 現状：今後、コロナ回復後の需要、また、CORSIAの見直しが必要の鍵

自主的な目的

1 ネット・ゼロ、カーボンニュートラル目標達成に使用

● 対象：非政府主体等
● 現状：SBTiに参加する団体は、クレジットの使用に制限有

2 自主的に毎年度の温室効果ガス排出量のオフセットや製品に使用

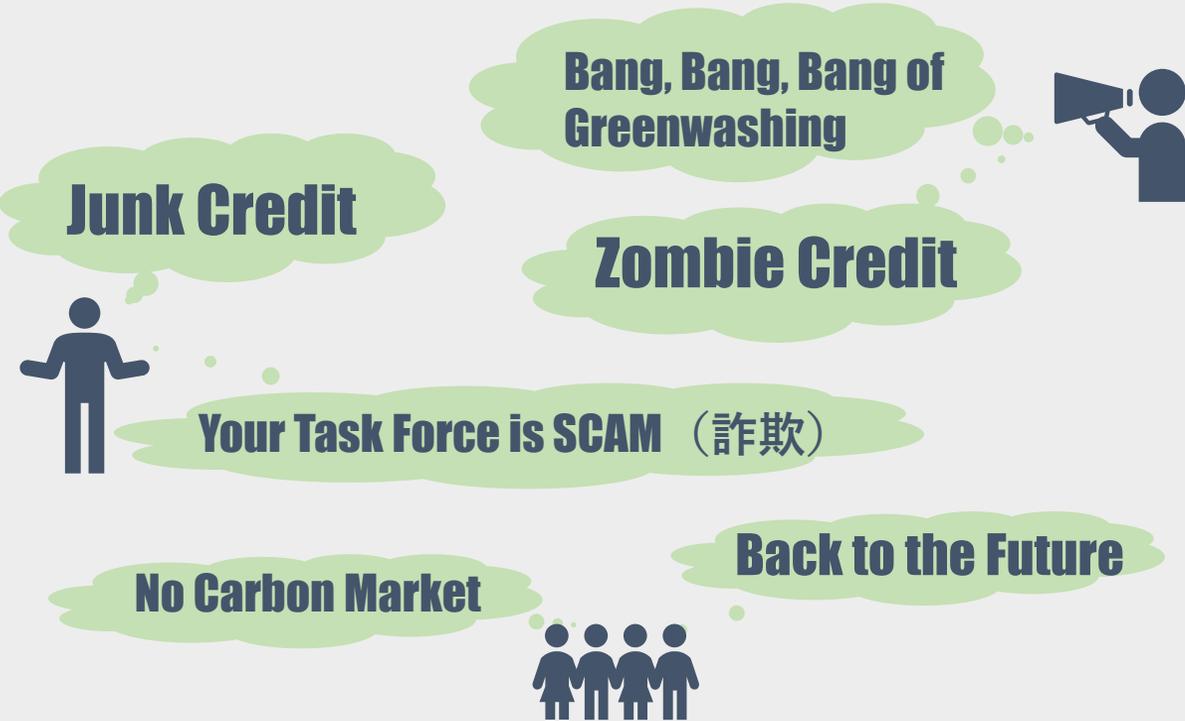
● 対象：企業等
● 現状：クレジットの使用に制限はないが、情報公開が重要（レピュテーションリスクの回避）

3 バリューチェーン外における削減貢献のための使用

今後、注目

● 対象：企業や投資家等？
● 現状：オフセットという概念ではなく、クレジット獲得を通じた投資の意味合いが強い

カーボンのクレジットに対する懸念も

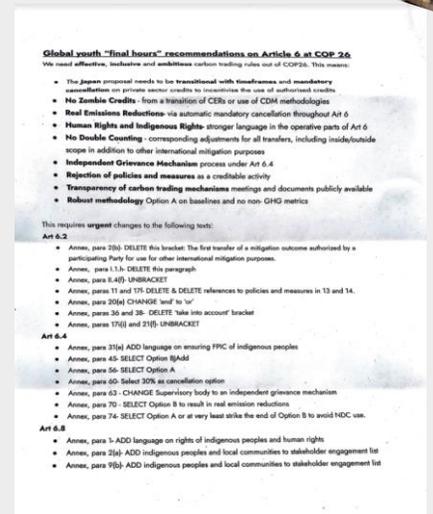


グretaさん他、SNSでグリーンウォッシングへの懸念やオフセットは排出のフリーパスであるとツイート

出典：グretaさんツイート
<https://twitter.com/GretaThunberg/status/1455904676227002375>

COP26参加者に関する記事
 (化石燃料業界の参加企業を特定)

出典：Global Witness
<https://www.globalwitness.org/en/press-releases/hundreds-fossil-fuel-lobbyists-flooding-cop26-climate-talks/>



Youthによる6条への意見 (COP26会場内で配布)

- ▶ 石炭・化石燃料への風向きが厳しくなり、クレジットへも波及
- ▶ クレジットを大量に使用する業界にも厳しい視線
- ▶ クレジットの使用が1.5°Cにどのように貢献するか説明要



本日のお話

1 カーボンクレジットの動向

2 様々なイニシアティブの動き

3 自主的炭素市場十全性イニシアティブ（VCMI）の概要

4 VCMI Codeの4つのステップ

5 カーボンクレジットの展望

様々なイニシアティブの動き

高品質な クレジット

- パリ協定6条（特にパリ協定6条4項監督委員会のルール）
- 自主的炭素市場のための十全性評議会（Integrity Council for the Voluntary Carbon Market：IC-VCM）
- 国際民間航空のためのカーボン・オフセットおよび削減スキーム（CORSIA）
- カーボンクレジット品質イニシアティブ（Carbon Credit Quality Initiative：CCQI）

※CORSIA：Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation

情報開示

- 国際財務報告基準（IFRS）S2 気候関連開示案
- 米国証券取引委員会（SEC）の気候関連開示規則案
- **自主的炭素市場十全性イニシアティブ（Voluntary Carbon Market Integrity Initiative：VCMi）**

バリューチェーン 外の削減

- Science Based Targets Initiative（SBTi）
- **自主的炭素市場十全性イニシアティブ（Voluntary Carbon Market Integrity Initiative：VCMi）**
- 熱帯林クレジット十全性（Tropical Forest Credit Integrity：TFCI）
- Minimum criteria required for participation in the Race to Zero campaign

各イニシアティブの関係性

十全性の高い
炭素市場



次のプレイヤーは
公正取引員会？消費者庁？

Glasgow Financial
Alliance for Net Zero

ひとまず
静観



次のプレイヤーは
金融当局？



↑
人
↓
インプット

→
連携
←
→



本日のお話

- 1 カーボンクレジットの動向
- 2 様々なイニシアティブの動き
- 3 自主的炭素市場十全性イニシアティブ（VCMI）の概要**
- 4 VCMI Codeの概要
- 5 カーボンクレジットの展望

VCMIとは

自主的炭素市場十全性イニシアティブ（VCMI）(2021年7月29日設立)

- 2021年3月31日に英国政府が設立を発表し、CIFFやビジネスエネルギー産業戦略省が共同出資。
- 企業等の非政府主体による**カーボンクレジットの使用とその主張について指針を作成**。
- Meridian Institute(米国の非営利団体) が事務局を務める。
- 運営委員会・専門家アドバイザリーグループ・事務局等を設置。

略語：Children's Investment Fund Foundation (CIFF)



VCMI Code of Practiceとは

VCMI Codeの目的

カーボンクレジットの自主的な償却（目標達成への使用）に関連し、実行可能な目標や主張の種類、その透明性と信頼性を確保するため報告について、明確な指針を示すこと。

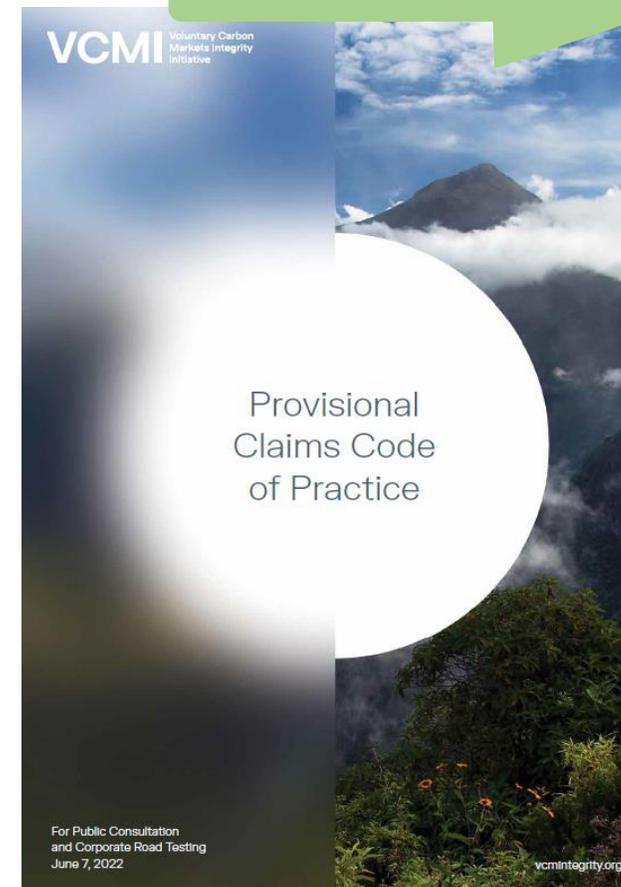
その他、下記の対象者が活用することも想定。

- ✓ 気候変動に配慮した**購買決定を行おうとする個人及び団体の消費者**
- ✓ 企業の脱炭素化努力の一環としてカーボンクレジットを含む目標やその目標達成の完全性や野心を判断する**投資家やその他のステークホルダー**
- ✓ カーボンクレジットの使用、関連する主張の信頼性の強化を検討している**政府機関**

本Codeが参考とした他のイニシアティブ

- ✓ Carbon Pricing Leadership Coalition (CPLC) の報告書：Report of the Task Force on Net Zero Goals and Carbon Pricing
- ✓ Science Based Target initiative (SBTi)：Net-Zero Standard
- ✓ Gold Standard：Scope 3 Value Change Interventions Guidance
- ✓ GHG Protocol Corporate Value Chain (Scope 3)：Accounting and Reporting Standard.

企業による使用を想定



<https://vcmintegrity.org/wp-content/uploads/2022/06/VCMI-Provisional-Claims-Code-of-Practice.pdf>

本日のお話

- 1 カーボンクレジットの動向
- 2 様々なイニシアティブの動き
- 3 自主的炭素市場十全性イニシアティブ（VCMI）の概要
- 4 VCMI Codeの4つのステップ**
- 5 カーボンクレジットの展望

VCMI Codeの4つのステップ

1 参加の前提条件

2 主張の特定

3 高品質なクレジットの購入

4 透明性の高いカーボンクレジット使用の報告

ステップ1：参加の前提条件

VCMIIは、企業がバリューチェーン全体において、追加的にカーボンプレジットを使用することだけを求める。

1 Scope1-3を対象に、2050年までに科学的根拠に基づく長期的なネット・ゼロ達成を公約すること

2 排出削減の中間目標を設定し、公表すること（SBTiガイダンスを参考）

3 目標達成のために採用した計画と戦略に関する詳細な情報を提供すること

サプライチェーン内外の高品質なカーボンプレジットの使用計画（現在・今後）、さらに関連するリスクと機会について、国際的なガイダンス（国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）等）と整合性のある形で提供が必要。

4 一般に公開可能な温室効果ガス排出インベントリーを維持すること（Scope1-3、GHGプロトコルに準拠）

5 企業のアドボカシー活動が、パリ協定の目標に合致していることを公的な声明として出すこと

上記の前提条件の遵守は、信頼できる独立した第三者機関による確認が必要（SBTi?、PAS2060?）

ステップ2：主張の特定

VCMIでは、主張に関して2つの方法を準備

1 Enterprise Wide Claim（企業レベルの長期ネット・ゼロ目標の達成に関する主張）

- 企業の長期的なネット・ゼロ目標達成に加え、地球規模の排出量削減を加速するための貢献としての炭素クレジットの購入と償却を意味する。

VCMI Gold

VCMI Silver

VCMI Bronze

2 カーボンニュートラル ブランド、製品、サービスレベルの主張

- ブランド・製品・サービスレベルの主張は、企業が長期的なネット・ゼロ目標に向けて進捗を進める中で、バリューチェーン全体における達成度を示すもの。
- 現在、消費者が責任ある製品を購入することに対し、価値を見出すようになってきていることから、信頼できるブランド、製品、サービスレベルの主張は、**気候変動に対応した消費に対する社会の認識を高めるために有用。**

ステップ2：主張の特定

Enterprise Wide Claimにおける条件

VCMI Gold

- バリューチェーンの排出削減により、スコープ1-3の中間目標を達成する見込みがあること
- 高品質のカーボンクレジットを購入・償却することで、残りの排出量を全て（100%）カバー

クレジット購入費用がかさむ

VCMI Silver

- バリューチェーンの排出削減により、スコープ1-3の中間目標を達成する見込みがあること
- 高品質のカーボンクレジットを購入・償却することで、残りの排出量のうち20%をカバー

Scope3に対するクレジット使用は制限あり（2030年まで）

VCMI Bronze

- バリューチェーンの排出削減により、スコープ1・2の中間目標の達成に向け順調に削減していること
- バリューチェーン内での排出削減とカーボンクレジットの購入・償却の組み合わせで、中間目標に必要なレベルまでスコープ3排出量を削減すること（**最大50%**）
- 高品質のカーボンクレジットの購入と償却により、残りの排出量のうち少なくとも20%をカバー

ステップ2：主張の特定

カーボンニュートラル ブランド、製品、サービスレベルの主張を行うための条件

- ✓ 組織全体として、ステップ1で説明した前提条件をすべて満たしていること。
- ✓ GHGプロトコル（または同等のもの）に従い、部門・ブランド・製品・またはサービスに関連するすべてのスコープ1-3のライフサイクル排出量をカバーした、一般に公開可能なインベントリーを維持すること。
- ✓ 信頼できる基準（イベントや製品についてはGHGプロトコル ライフサイクル報告・会計基準、PAS2050、PAS2060など）のカーボンニュートラルガイダンスに従うこと。
- ✓ 一定期間の回避できない排出量をカバーするため、高品質なカーボンクレジットを使用すること。
- ✓ 誤った印象を与えたり、活動の有益な環境影響を誇張したりしないようにすること。
- ✓ 信頼可能な**独立した第三者による検証を通じて、上記の全ての要件を満たしていることを証明すること。**

ステップ3：高品質なクレジットの購入

カーボンクレジットの購入、また、支援する活動は、地域社会にとって好ましい結果をもたらし、**社会的セーフガードを遵守する必要がある。**

- 1 認知され信頼可能で管理されたスタンダード設定機関との連携
- 2 高い環境品質（追加性、第三者による検証、MRV、永続性の対応等）
- 3 ジェンダーの平等と女性の保護、労働者の権利、健康、教育、適切な生活水準に対する権利等の確保
- 4 環境の質の保全と向上への貢献

すべてのカーボンクレジットはプロジェクトの管轄区域における環境法を遵守しなければならない。水質の改善、生物多様性の向上、より強靱なエネルギー供給、土壌の健全性の改善など、環境面でのコベネフィットを生み出すような活動に努めるべき。

▶ VCMII は、高品質なカーボンクレジットに関する詳細なガイダンスを提供しない。**CORSIA・IC-VCM・パリ協定6条の関連ガイダンスが高品質なクレジットの基準となりうる。**

ステップ4：透明性の高いカーボンクレジット使用の報告

主張を裏付けるためには、透明性のある情報の報告が不可欠

1 主張するために購入・償却したクレジット量

目標を超える排出量をカバーしたクレジット量、Scope3に使用するクレジット量（VCMI Bronze）等

2 使用したクレジットの認証基準名、プロジェクト名、クレジットのID等

3 ホスト国（プロジェクト実施国）

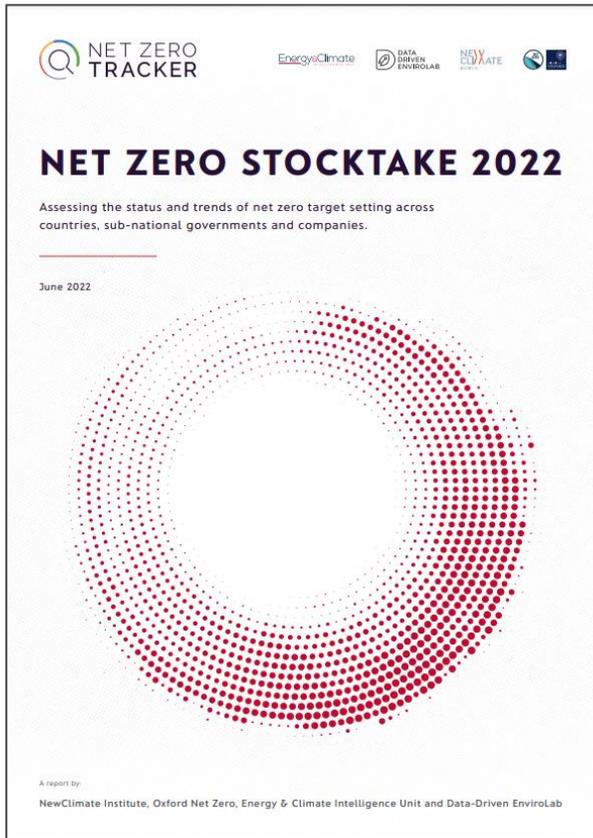
4 クレジットのビンテージ（排出削減が実施された年）

5 方法論、プロジェクトの種類

6 クレジットの相当調整の有無

国際財務報告基準（IFRS）S2 気候関連開示案や、米国証券取引委員会（SEC）の気候関連開示規則案においても、カーボンクレジットの使用に関する情報開示を求める流れ。

欧州におけるシンクタンクの報告書



ネット・ゼロストックテイクレポート2022

- 4,000を超える組織のうち1,181（EUを含む）がネット・ゼロ目標を掲げている（Net Zero Trackerデータベースを利用）。
- 国および自治体の75%以上は、ネット・ゼロの目標を達成するためにクレジットを使用するかどうか、まだ決めていない。
- 企業の約40%は、ネット・ゼロを達成するためにカーボンクレジットを使用することを意図しており、2%未満が明示的に使用を除外。
- オフセットに依存するかどうかを決めていない企業は60%近く。

出典：New Climate Institute, Net Zero Stocktake Report 2022

<https://www.newclimate.org/resources/publications/net-zero-stocktake-2022>

カーボンクレジットの展望

カーボンクレジットの使用制限

今後、中長期の目標達成にカーボンクレジットを使用すること(オフセット)は制限がかかっていくと考えられる (**SBTiの参加企業は増加傾向：3,212社**)

野心の高い企業 (SBTi等に参加する企業) はバリューチェーン外の削減に貢献

カーボンクレジットは、排出量をオフセットするための目的から“**長期的なネット・ゼロへの貢献のための投資**”という考えに変化していくと考えられる (京都メカニズムの考え方から脱却、パリ協定へ)

野心の高い企業 (SBTi等に参加する企業) はカーボンクレジット創出プロジェクトへ投資

クレジットを目標達成には使用しない

一部企業は移行期において、オフセット目的での使用は継続

脱炭素計画や情報開示の準備が遅れば、カーボンクレジットの使用はリスクとなりうる。
使用するクレジットの情報開示とビンテージが重要。

過大な広告表示に対する規制の可能性

クレジット使用によるネット・ゼロやカーボンニュートラル達成の過大な広告表示には留意 (例：英国、豪州における消費者保護等の動き)



ご清聴ありがとうございました。

気候変動とエネルギー領域 / 副ディレクター

高橋健太郎

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関

參考資料

COP27関連情報

UNFCCC COP27 特集



新着情報

研究者の視点

論点Q&A集 (準備中)

関連出版物

IGES関連プロジェクト

2022年11月6日（日）から11月18日（金）にかけて、エジプト シャルム・エル・シェイクで国連気候変動枠組条約第27回締約国会議（COP27）が開催されます。このページでは、IGES研究員がCOP27に先立ち開催される気候変動に関する交渉会議や様々な重要なイベントを盛り込みながら、COP27を解説します。IGESが出版した関連出版物や、COP27の開催期間中のサイドイベントの情報も随時アップデートします。

COP27特集 はじめました。

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/cop27>

森林に興味・関心の皆様へ

IGES 地球環境戦略研究機関 (IGES)
2021年11月26日 11:20



変わりゆく企業意識：オフセットからネットゼロへ

皆さん、カーボン・オフセットという言葉をご存知でしょうか。カーボン・オフセットとは、カーボン（炭素）をクレジットとして取引することによって、クレジットを購入した側が、自らのGHG排出をオフセット（相殺）する仕組みのことを指します。

カーボン・オフセットは、排出削減に必要な資金を効率的に調達するひとつの手段として、様々な国や地域、また国境を超えて広く実施されてきました。その中でも主流なのが、植林...

もっとみる

#SDGs #農業 #パートナーシップ #国際協力 #サステナビリティ #ESG
#脱炭素 #森林 #気候危機 #サプライチェーン #官民連携 #CO2 #COP26
#クレジット #温室効果ガス #植林 #カーボンオフセット #leaf #森林保全
#カーボンクレジット #ネットゼロ

♡ 31 コメントする

IGES 地球環境戦略研究機関 (IGES)
2022年2月3日 16:35



農林業向けSBTガイダンスがとうとう完成！

「森林・土地・農業の科学に基づく目標設定ガイダンス(Forest, Land, and Agriculture Science Based Target Setting Guidance)」のドラフトが公開され、パブリックコメントが募集されています（2022年2月18日）。

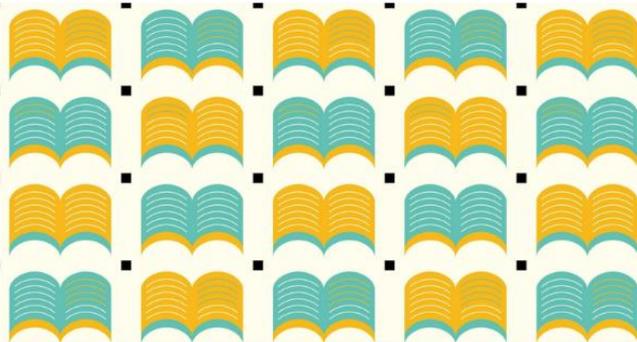
COP26で、ネット・ゼロの実現には、森林減少防止やネイチャー・ベースド・ソリューションが重要であると改めて認識されました...

もっとみる

#自然 #SDGs #農業 #食 #環境問題 #SDGsへの向き合い方 #経営戦略
#地球温暖化 #気候変動 #サステナビリティ #林業 #脱炭素 #森林
#サプライチェーン #カーボンクレジット #ネットゼロ

♡ 17 コメントする

IGES 地球環境戦略研究機関 (IGES)
2022年5月30日 17:29



企業必読、熱帯林クレジットの十全性ガイド

森林カーボンクレジットは実用段階へ
企業の脱炭素の取り組みが進む中で、森林カーボンクレジットに関する「興味」から一歩進んだ「需要」が高まりつつあります。気候変動緩和対策として重要な森林保全。その推進のために、資金動員手段のひとつとして、10年以上もかけて検討されてきた森林カーボンクレジットが、ついに実用段階にきたということは、この分野に長年携わってきた私たちにとっては、とても喜ばしいことです。

...

もっとみる

#SDGs #SDGsへの向き合い方 #気候変動 #リスク #ESG #脱炭素 #森林
#クレジット #温室効果ガス #パリ協定 #カーボンクレジット #熱帯林

♡ 23 コメントする

Note はじめました。
<https://note.com/iges/>

VCMIの相当調整に関する見解

▶ 今後、コンプライアンス使用目的以外のクレジットに対して、相当調整の適用について義務ではないとの理解が進み、ホスト国(プロジェクト実施国)の法整備の状況によって決定されると考えられる。

- ▶ クレジットがホスト国で承認され、国際的に移転された場合、相当調整を行い、二重計上を防止しなければならない。
- ▶ 相当調整は、排出削減や除去の質には影響を与えない。
- ▶ 6条のガイダンスは、企業がカーボンクレジットを自主的な目的で使用する場合に、相当調整を適用すべきかどうかを明示していない。
- ▶ 6条は、ホスト国が自主的炭素市場のカーボンクレジットの使用に対して、相当調整を適用する道筋を作るが、義務ではない。
- ▶ 自主的なカーボンクレジットの取引に相当調整を行うかどうかを決定した国は少なく、必要な法的・制度的枠組みを整備した国もさらに少ないのが現状。

